

# 育め子どもたち! 広がれ傘の輪!

## ⑰ 鳥取市子ども会連合会

### 小さな踊り子たち

鳥取市街を華やかに彩る

「鳥取しゃんしゃん祭」の季節がやってきた。三十九回目を迎える鳥取しゃんしゃん祭は、今年、五十八連が参加し、約三千七百人が一斉に踊る夏の大イベント。この祭りは、大人たちの連に混じり子どもたち四百人で踊る連がある。毎年かわいい踊りで観客を楽しませている鳥取市子ども会連合会だ。この連合会は、市内の小学校三十一校区



真剣に傘踊りの指導を受ける子どもたち

の子どもたち約四千人からなり、さまざまな活動に取り組んでいる。

「しゃんしゃん祭には、小学生四、六年生を中心に毎年順番で各校区から参加する子どもたちを募って参加しています。今年は、十四校区から約四百人が参加します」と、この連の責任者である亀田静夫さん（鳥取市子ども会連合会副会長）。初めて参加した平成二年は、五校区、四十一人で踊っていたとのこと。今では、その当時の十倍に。

### 活動の原点

「各校区ごとに練習日を設けて指導をしています」と保本百合子さん（鳥取市子ども会連合会副会長）。保本さんは、初参加のときから十四年間、すべての子どもたちに傘踊りの指導を続けている。

「一生懸命練習をする子どもたちの姿が頭に浮かび、練習に向かう自転車のペダルをこぐ足にも力が入ります」と嬉しそうに答える保本さんは、この時期になると休みはなく毎日踊りの指導を行っていた。自宅に帰るのも夜九時を過ぎることもあるとか。

「練習の成果を、たくさんいる沿道の観客に披露し、踊りを終えたときに見せる子どもたちの達成感に満ちた顔が楽しみで」と笑顔で答える保本さん。傘踊りなどをつうじて成長していく子どもたちの姿が、鳥取市子ども会連合会の活動の原点だと感じた。亀田さんや保本さんをはじめとする役員のみなさんと子どもたちにとって、しゃんしゃん祭は年に一度の最大のイベントだ。

### 傘の輪、人の輪

鳥取市子ども会連合会では、祭をとおして交流を行っている。昨年、鳥取市子ども会連合会の子どもたちは、米子がない祭に参加し、傘踊りを披露した。



責任者の亀田静夫さん（右）と保本百合子さん（左）

「今年は、がない祭が縁で知り合った米子の崎津子ども会の子どもたち三十人が、私たちの連に参加して一緒に踊ってくれるんです。今後も米子の子どもたちと交流を続けたいですね。そして、全国の子どもたちと傘踊りをつうじて交流の輪を広げていきたいです」と亀田さんはこれからの子ども会活動の展望を語った。

傘踊りをとおした、これからの鳥取市子ども会連合会の活動に期待したい。今年も鳥取の熱い夏の夜に、子どもたちの傘踊りが沿道の観客を魅了する。